平成25年３月期　第１四半期決算短信［日本基準］（連結）

平成24年８月１日

上 場 会 社 名 アステラス製薬株式会社　　上 場 取 引 所 東証一部・大証一部
コ ー ド 番 号 4503　　U　R　L http://www.astellas.com/jp/
代　　表　　者（役職名）代表取締役社長　（氏名）畑中　好彦
問合せ先責任者（役職名）広報部長　（氏名）河村　真　　ＴＥＬ　(03)3244-3201

四半期報告書提出予定日　平成24年８月８日　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：　有 ・ 無
四半期決算説明会開催の有無　　：　有 ・ 無　（証券アナリスト・機関投資家・報道機関向け）

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第１四半期の連結業績（平成24年４月１日～平成24年６月30日）

(1) 連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年３月期第１四半期	243,232	△3.3	52,891	8.4	55,735	10.7	35,489	41.1
24年３月期第１四半期	251,617	5.9	48,801	△13.3	50,337	△11.6	25,146	△36.3

（注）包括利益　25年３月期第１四半期　△4,094百万円（－%）　24年３月期第１四半期　14,385百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
25年３月期第１四半期	76　83	76　74
24年３月期第１四半期	54　45	54　39

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年３月期第１四半期	1,336,129	984,086	73.5
24年３月期	1,400,629	1,018,123	72.6

（参考）自己資本　25年３月期第１四半期　982,405百万円　24年３月期　1,016,518百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
24年３月期	－	60　00	－	65　00	125　00
25年３月期	－	―――	―――	―――	―――
25年３月期（予想）	―――	65　00	－	65　00	130　00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　有 ・ 無

３．平成25年３月期の連結業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
第２四半期（累計）	476,000	△1.6	75,000	△9.6	75,500	△8.4	52,000	1.3	112　57
通　期	972,000	0.3	146,000	11.0	147,000	8.8	98,000	25.3	212　16

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　有 ・ 無

※　注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：　有・[無]
（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　[有]・無

（注）詳細は、添付資料P.７「２．サマリー情報（注記事項）に関する事項　（１）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：　有・[無]
②　①以外の会計方針の変更　：　[有]・無
③　会計上の見積りの変更　：　[有]・無
④　修正再表示　：　有・[無]

（注）「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の５に該当するものです。詳細は、添付資料P.７「２．サマリー情報（注記事項）に関する事項　（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年３月期第１四半期	467,964,635株	24年３月期	467,964,635株

②　期末自己株式数

25年３月期第１四半期	6,043,276株	24年３月期	6,044,560株

③　期中平均株式数（四半期累計）

25年３月期第１四半期	461,920,390株	24年３月期第１四半期	461,830,253株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記の予想及び添付資料に含まれる将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.６「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

四半期決算補足説明資料は四半期決算短信に添付しています。

また、平成24年８月１日（水）に証券アナリスト・機関投資家・報道機関向けにカンファレンス・コールを開催する予定です。このカンファレンス・コールの音声については、当日使用する四半期決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… P. 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… P. 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… P. 5
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… P. 6
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… P. 7
（１）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… P. 7
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… P. 7
３．四半期連結財務諸表 …… P. 9
（１）四半期連結貸借対照表 …… P. 9
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… P. 10
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… P. 10
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… P. 11
（３）継続企業の前提に関する注記 …… P. 12
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… P. 12

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期（２０１２年４月１日から６月３０日）の連結業績は、以下の通り売上高は減収、営業利益、経常利益、四半期純利益は増益となりました。
当第１四半期の為替レートは、前年同期に比べ、米ドルに対しては２円、ユーロに対しては１４円の円高となったことから、売上高においては８１億円の減収、営業利益においては１億円の減益の影響がありました。

［連結業績］ （単位：百万円、端数切捨て）

	前年第１四半期 (2012年３月期)	**当第１四半期 (2013年３月期)**	対前年同期増減額 (増減率)
売　上　高	２５１,６１７	**２４３,２３２**	△８,３８４ (△３.３%)
営 業 利 益	４８,８０１	**５２,８９１**	４,０８９ (８.４%)
経 常 利 益	５０,３３７	**５５,７３５**	５,３９８ (１０.７%)
四半期純利益	２５,１４６	**３５,４８９**	１０,３４２ (４１.１%)

（注）包括利益　**当第１四半期　　△4,094百万円（対前年同期増減率 － % ）**
前年第１四半期　14,385百万円

＜研究開発費＞

	前年第１四半期	**当第１四半期**
研究開発費	４３,５３１百万円	**４２,８６３百万円**

＜為替レート＞

	前年第１四半期	**当第１四半期**
円/米ドル	８２円	**８０円**
円/ユーロ	１１７円	**１０３円**

【売上高】

連結売上高は2,４３２億円（前年同期比３.３％減）となりました。

・グローバル製品である過活動膀胱治療剤**ベシケア**が引き続き伸長したほか、キャンディン系注射用抗真菌剤**マイカミン／ファンガード**などが順調に拡大しました。一方、免疫抑制剤**プログラフ**、前立腺肥大症の排尿障害改善剤**ハルナール**は、後発医薬品の影響などにより売上が減少しました。

・また、本年４月に実施された薬価改定の影響などもあり、国内市場における売上は減少しました。

（地域別売上高の状況）

※地域別売上高については売上元会社の所在地を元に集計しています。

◇日本

日本の売上高は1,３７７億円（同１.２％減）となりました。このうち、国内市場での売上高は1,３４０億円（同０.４％減）となりました。

・**プログラフ**、非ステロイド性消炎・鎮痛剤**セレコックス**のほか、入眠剤**マイスリー**などが伸長しました。

・持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤**ミカルディス**は、利尿剤との配合剤である**ミコンビ**及びカルシウム拮抗剤との配合剤である**ミカムロ**と併せて売上を拡大しました。

・このほか、成人気管支喘息治療剤**シムビコート**や骨粗鬆症治療剤**ボノテオ**などの新製品が伸長しました。

・一方、後発医薬品の影響などにより、高コレステロール血症治療剤**リピトール**、消化性潰瘍・胃炎治療剤**ガスター**、**ハルナール**の売上は減少しました。

◇海外

米州の売上高は４６４億円（同３.７％減）となりました。なお、現地通貨ベースでの売上高は５７９百万ドル（同１.８％減）となりました。

・**ベシケア**に加え、心機能検査補助剤**レキスキャン**が伸長しました。また、抗がん剤**タルセバ**の収入が増加しました。

・**プログラフ**は後発医薬品の影響により売上が減少しました。

・なお、前年同期においては当社の子会社が保有する２型糖尿病治療に関するDPP-IV阻害剤の知的財産に付随するロイヤリティ収入を米州の売上に計上していましたが、２０１１年７月に同剤に関わる資産を売却したため減収の要因となりました。

欧州の売上高は４９０億円（同１０.６％減）となりました。なお、現地通貨ベースでの売上高は４７７百万ユーロ（同２.０％増）となりました。

・**ベシケア**の売上が伸長したほか、**マイカミン**の売上が着実に拡大しました。

・**プログラフ**、**ハルナール**の自社販売による売上は、各国での価格の引き下げや後発医薬品の影響により減少しました。

アジアの売上高は９９億円（同９.６％増）となりました。

・**プログラフ**、**ハルナール**などが順調に拡大し、増収となりました。

【営業利益】

連結営業利益は５２８億円（同8.4％増）となりました。

・売上原価率は低下したものの、売上高が減少したことから、売上総利益は1,６９７億円（同2.5％減）となりました。なお、売上原価率は、前年同期に比べ0.6ポイント低下し３０.２％となりました。製品構成の変化による上昇要因の一方で、グループ間取引における未実現利益の消去に伴う為替の影響などが低下要因となりました。

・販売費及び一般管理費合計は1,１６９億円（同6.7％減）となりました。

・このうち、研究開発費は、４２８億円（同1.5％減）となりました。対売上高研究開発費比率は、前年同期より0.3ポイント上昇し１７.6％となりました。

・また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、海外の販売促進費のほか無形固定資産の減価償却費が減少したことなどから、７４０億円（同9.5％減）となりました。

【経常利益】

連結経常利益は５５７億円（同１０.7％増）となりました。

・営業外収益は、為替差益を計上したことなどから、前年同期に比べ１３億円増加し３０億円となりました。営業外費用は1億円となりました。

【四半期純利益】

連結四半期純利益は３５４億円（同４１.1％増）となりました。

・特別利益は2億円となりました。特別損失は、有形固定資産及び仕掛研究開発費に関わる無形固定資産の減損損失７０億円を計上したことなどから８３億円となりました。

・また、法人税等の負担率は、海外グループ会社からの配当の方針を変更したことに伴い一時的に上昇した前年同期に比べ、低下しました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第１四半期末の連結貸借対照表の概要及び前期末からの主な変動は以下の通りです。

【資産】

当第１四半期末（２０１２年６月３０日時点）の総資産は、１兆３,３６１億円（対前期末比６４５億円減）となりました。

＜流動資産＞当第１四半期末：７,４１４億円（同３９６億円減）

・現金及び預金が２１３億円、有価証券が１７２億円減少しました。

＜固定資産＞当第１四半期末：５,９４６億円（同２４８億円減）

・有形固定資産は１,９５２億円（同３９億円減）となりました。

・無形固定資産は２,９４３億円（同１９８億円減）となりました。
特許権が１３２億円、のれんが６１億円減少しました。

【負債】

負債の合計は、３,５２０億円（同３０４億円減）となりました。

＜流動負債＞当第１四半期末：２,８８１億円（同２５９億円減）

＜固定負債＞当第１四半期末：６３８億円（同４４億円減）

【純資産】

純資産は、９,８４０億円（同３４０億円減）となり、自己資本比率は７３.５％となりました。

・四半期純利益３５４億円を計上した一方で、剰余金の配当３００億円を実施しました。
また、為替換算調整勘定が純資産の減少方向に３９５億円変動しました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

当期（２０１３年３月期）の第２四半期連結累計期間業績予想及び通期連結業績予想は以下の通りであり、２０１２年５月発表時点からの変更はありません。

［第２四半期連結累計期間業績予想］　（単位：百万円、端数切捨て）

	２０１２年３月期 第２四半期実績	**２０１３年３月期 第２四半期予想**	増減額 (増減率)
売　上　高	４８３,９２５	**４７６,０００**	△７,９２５ (△１．６%)
営 業 利 益	８２,９９９	**７５,０００**	△７,９９９ (△９．６%)
経 常 利 益	８２,４２６	**７５,５００**	△６,９２６ (△８．４%)
四半期純利益	５１,３３０	**５２,０００**	６６９ (１．３%)

［通期連結業績予想］　（単位：百万円、端数切捨て）

	２０１２年３月期 通期実績	**２０１３年３月期 通期予想**	増減額 (増減率)
売　上　高	９６９,３８７	９７２,０００	２,６１２ (０．３%)
営 業 利 益	１３１,５１９	１４６,０００	１４,４８０ (１１．０%)
経 常 利 益	１３５,１０７	１４７,０００	１１,８９２ (８．８%)
当 期 純 利 益	７８,２３０	９８,０００	１９,７６９ (２５．３%)

（注）２０１３年３月期 通期の想定為替レート ：８０円／米ドル、１０５円／ユーロ
２０１２年３月期 通期の為替レート（実績）：７９円／米ドル、１０９円／ユーロ
２０１２年３月期 第２四半期の為替レート（実績）：８０円／米ドル、１１４円／ユーロ

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第１四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の法人税等の負担率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該負担率を乗じて計算しています。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

従来、当社及び国内連結子会社の有形固定資産の減価償却方法は定率法によっていましたが、当第１四半期連結会計期間より海外連結子会社において採用している定額法に変更しました。

当社グループでは、主力製品の特許切れに伴う業績への影響や、事業環境の変化に対応するため、既に公表している中期経営計画において、泌尿器領域及び移植領域に加えてがん領域をグローバルで競争優位を確立すべき重要な領域と定めるとともに、研究開発面では、同じ診断名の疾患に対して同一の治療薬（Mass Medicine）を広く提供できるように開発するアプローチから、厳密に定義された特定の患者セグメントに高い効果を示す治療薬（Precision Medicine）の創製を目指す創薬アプローチに軸足を移し、積極的に推進しています。

このような取り組みに加え、前連結会計年度において、抗がん剤に特化した医薬品企業であるOSI社買収後の統合プロセスが完了したほか、他社から導入した抗がん剤の開発状況の進展など、がん領域をフランチャイズ領域とする事業基盤が整備されてきていることを踏まえ、平成２４年度からの５ヵ年中期経営計画における個々の施策の見直しの中で、減価償却方法についての再検討を行いました。その結果、以下の理由を総合的に勘案し、減価償却方法についてグループ内の会計処理を統一し耐用年数にわたり均等償却により費用配分を行うことが、期間損益計算のより一層の適正化とともに、グループ全体の業績管理の精度向上に寄与するものと判断しました。

① 今後の設備投資計画では、抗体医薬をはじめとする多品種少量生産を行う体制作りへの設備投資を行う予定であり、当該投資が生産設備のより安定的な稼働に寄与すると想定されること。また現有の大型製品が今後成熟期に入ることにより、既存の生産設備の稼働についてもより平準化、安定化する見込みであること。

② 研究開発面では、従来より自社の研究開発力に重点を置いた製品開発体制としていましたが、自社による創薬研究に加え、他社とのアライアンスを、今後より一層積極的に推進し、研究開発の相乗効果を高めることにより、研究開発の不確実性リスクの低減を図っていること。

③ 当社グループは、日本、米州、欧州、アジアの４極でのバランスのとれたグローバル展開を地域戦略としており、地域横断的な研究開発体制及び生産体制に基づくより効率的な資源配分を行うためには、原価計算を含めグループ内で統一されたグローバル管理が必要であること。

この結果、従来の方法によった場合に比べ、当第１四半期連結累計期間の売上総利益は３３８百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ１，６４１百万円増加しています。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成24年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	210,986	189,662
受取手形及び売掛金	264,687	267,568
有価証券	88,112	70,816
たな卸資産	111,822	114,101
その他	108,356	101,667
貸倒引当金	△2,887	△2,377
流動資産合計	781,078	741,439
固定資産		
有形固定資産	199,159	195,223
無形固定資産		
のれん	94,192	88,033
特許権	161,499	148,284
その他	58,586	58,081
無形固定資産合計	314,278	294,399
投資その他の資産		
投資有価証券	60,525	60,336
その他	45,626	44,754
貸倒引当金	△39	△23
投資その他の資産合計	106,112	105,067
固定資産合計	619,550	594,690
資産合計	1,400,629	1,336,129
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	108,408	103,744
未払法人税等	24,757	11,020
引当金	4,027	3,176
その他	176,976	170,231
流動負債合計	314,170	288,173
固定負債		
退職給付引当金	16,979	16,224
その他	51,356	47,645
固定負債合計	68,336	63,870
負債合計	382,506	352,043
純資産の部		
株主資本		
資本金	103,000	103,000
資本剰余金	176,821	176,823
利益剰余金	894,737	900,201
自己株式	△23,131	△23,126
株主資本合計	1,151,427	1,156,898
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,257	12,221
為替換算調整勘定	△147,166	△186,714
その他の包括利益累計額合計	△134,909	△174,493
新株予約権	1,604	1,680
純資産合計	1,018,123	984,086
負債純資産合計	1,400,629	1,336,129

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）
売上高	251,617	243,232
売上原価	77,485	73,435
売上総利益	174,131	169,797
販売費及び一般管理費	125,330	116,905
営業利益	48,801	52,891
営業外収益		
受取利息	318	302
受取配当金	516	518
持分法による投資利益	68	28
為替差益	582	1,792
その他	178	375
営業外収益合計	1,665	3,017
営業外費用		
支払利息	14	51
その他	115	121
営業外費用合計	129	172
経常利益	50,337	55,735
特別利益		
固定資産売却益	5	173
投資有価証券売却益	2,162	98
その他	561	15
特別利益合計	2,729	286
特別損失		
固定資産除売却損	384	201
減損損失	3,435	7,022
災害による損失	856	－
その他	930	1,103
特別損失合計	5,606	8,327
税金等調整前四半期純利益	47,460	47,695
法人税等	22,314	12,206
少数株主損益調整前四半期純利益	25,146	35,489
四半期純利益	25,146	35,489

（四半期連結包括利益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	25,146	35,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	526	△35
為替換算調整勘定	△11,287	△39,547
その他の包括利益合計	△10,761	△39,583
四半期包括利益	14,385	△4,094
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,385	△4,094
少数株主に係る四半期包括利益	―	―

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

2013年3月期第1四半期決算　補足情報

【業績情報】

１．連結損益の詳細
２．地域別売上高・営業利益
３．為替レートの状況
４．研究開発費の状況
５．減価償却費の状況
６．主要製品の売上高
７．連結貸借対照表

【開発品情報】

新薬開発状況

1. 連結損益の詳細

（億円）

	12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
売上高	2,516	2,432	−83	−3.3%	4,760	−1.6%	9,720	0.3%
売上原価	774	734	−40	−5.2%				
（売上高比率）	30.8%	30.2%						
売上総利益	1,741	1,697	−43	−2.5%				
販売費・一般管理費	1,253	1,169	−84	−6.7%				
（売上高比率）	49.8%	48.1%						
研究開発費	435	428	−6	−1.5%	860	−5.4%	1,790	−5.7%
研究開発費を除く販売費・一般管理費	817	740	−77	−9.5%				
内、広告費・販売促進費	207	159	−48	−23.2%				
人件費	325	334	9	2.8%				
その他費用	284	246	−38	−13.5%				
営業利益	488	528	40	8.4%	750	−9.6%	1,460	11.0%
（売上高比率）	19.4%	21.7%			15.8%		15.0%	
営業外収益	16	30	13	81.2%				
内、為替差益	5	17	12	207.9%				
営業外費用	1	1	0	33.1%				
経常利益	503	557	53	10.7%	755	−8.4%	1,470	8.8%
（売上高比率）	20.0%	22.9%			15.9%		15.1%	
特別利益	27	2	−24	−89.5%				
内、固定資産売却益	0	1	1	−				
投資有価証券売却益	21	0	−20	−95.4%				
特別損失	56	83	27	48.5%				
内、固定資産除売却損	3	2	−1	−47.6%				
減損損失	34	70	35	104.4%				
災害による損失	8	−	−8	−				
税金等調整前当期純利益（税金等調整前四半期純利益）	474	476	2	0.5%				
法人税等	223	122	−101	−45.3%				
当期純利益（四半期純利益）	251	354	103	41.1%	520	1.3%	980	25.3%
（売上高比率）	10.0%	14.6%			10.9%		10.1%	
包括利益	143	−40	−184	−128.5%				

2. 地域別売上高・営業利益

（億円）

		12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
外部売上高		2,516	2,432	−83	−3.3%	4,760	−1.6%	9,720	0.3%
	日本	1,393	1,377	−16	−1.2%	2,774	2.4%	5,725	2.5%
	（構成比）	55.4%	56.6%			58.3%		58.9%	
	米州	482	464	−17	−3.7%	879	−6.6%	1,732	−5.6%
	（構成比）	19.2%	19.1%			18.5%		17.8%	
	欧州	549	490	−58	−10.6%	916	−9.1%	1,868	−2.6%
	（構成比）	21.8%	20.2%			19.2%		19.2%	
	アジア	90	99	8	9.6%	189	4.1%	393	10.0%
	（構成比）	3.6%	4.1%			4.0%		4.0%	
営業利益		488	528	40	8.4%	750	−9.6%	1,460	11.0%
	日本	245	238	−6	−2.7%				
	（構成比）	50.2%	45.1%						
	米州	14	58	43	298.6%				
	（構成比）	3.0%	11.0%						
	欧州	192	189	−2	−1.4%				
	（構成比）	39.3%	35.8%						
	アジア	16	16	−0	−2.1%				
	（構成比）	3.5%	3.1%						
	消去または全社	19	26	6					

注:売上元会社の所在地を元に集計しています。

3. 為替レートの状況

	12/3期 1Q	13/3期 1Q	12/3 期末	12/6 期末	13/3期 2Q予想	13/3期 通期予想
円／USD	82	80	82	79	80	80
円／EUR	117	103	110	99	105	105

＊為替レートの変動の影響により、当第1四半期において売上高で81億円の減収、営業利益においては1億円の減益の影響がありました。

4. 研究開発費の状況

（億円）

	12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
研究開発費	435	428	−6	−1.5%	860	−5.4%	1,790	−5.7%
（対売上高比率）	17.3%	17.6%			18.1%		18.4%	

5. 減価償却費の状況

（億円）

		12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 通期予想	増減率
減価償却費(有形)							
	連結	64	40	−23	−36.5%	170	−40.8%
減価償却費(無形)							
	連結	75	69	−6	−8.2%	225	−9.8%
※のれん償却額（上記 減価償却費（無形）には含まず）		30	29			98	
Agensys		17	17			51	
OSI		12	11			46	

6. 主要製品の売上高

1) グローバル製品

（億円）

		12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
プログラフ		417	397	−20	−4.8%	719	−9.9%	1,461	−5.7%
自社販売計		400	386	−14	−3.5%	702	−8.3%	1,427	−4.1%
	国内（グラセプター含む）	110	124	13	12.2%	240	11.0%	498	13.1%
	米州	79	75	−4	−5.0%	112	−27.5%	217	−25.6%
	欧州	172	141	−30	−18.0%	265	−16.3%	535	−11.1%
	内、アドバグラフ	41	42	0	1.9%				
	アジア	37	44	7	19.3%	84	8.3%	176	15.2%
輸出外部売上		17	11	−5	−34.9%	17	−47.1%	33	−44.9%
ハルナール		172	138	−34	−19.8%	264	−17.2%	529	−13.0%
自社販売計		158	129	−29	−18.4%	245	−16.5%	492	−12.2%
	国内	72	61	−11	−15.3%	121	−11.2%	240	−12.4%
	欧州	58	40	−18	−31.5%	73	−28.3%	147	−18.6%
	内、カプセル	21	17	−4	−19.6%	33	−14.4%	66	−7.5%
	内、Omnic OCAS	36	22	−14	−38.6%	40	−36.7%	80	−26.0%
	アジア	25	25	0	2.5%	47	−5.7%	98	−0.1%
バルク・ロイヤリティ等		13	8	−4	−36.0%	18	−25.4%	37	−22.4%
ベシケア		259	267	7	3.1%	525	9.3%	1,078	11.0%
	国内	79	78	−0	−0.8%	153	11.7%	320	14.1%
	米州	99	106	6	6.3%	210	9.6%	430	10.4%
	欧州	72	76	3	4.6%	146	5.2%	295	7.3%
	アジア	7	5	−1	−15.1%	14	29.2%	31	26.5%
ベタニス（2011年9月発売）									
	国内	−	6	6	−	18	−	46	399.6%
ファンガード/マイカミン		63	73	9	14.8%	136	6.0%	275	4.6%
	国内	31	32	1	5.6%	62	1.1%	119	−5.0%
	米州	20	22	2	12.9%	42	4.4%	87	5.5%
	欧州	8	12	4	51.0%	21	24.2%	46	24.3%
	アジア	4	5	0	19.9%	9	13.1%	21	28.3%
プロトピック		43	44	0	0.4%	86	3.1%	175	3.5%
	国内	8	10	1	21.1%	16	6.1%	32	2.7%
	米州	17	17	−0	−3.9%	35	−2.2%	72	−2.8%
	欧州	14	12	−2	−16.3%	26	2.9%	54	7.1%
	アジア	3	4	1	34.5%	8	17.5%	15	26.8%

注：個別製品の売上高のうち、国内売上の開示は仕切価ベースです。

2)日本の主要製品

（億円）

＜グローバル製品（再掲）＞	12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
プログラフ（グラセプター含む）	110	124	13	12.2%	240	11.0%	498	13.1%
ハルナール	72	61	−11	−15.3%	121	−11.2%	240	−12.4%
ベシケア	79	78	−0	−0.8%	153	11.7%	320	14.1%
ベタニス（2011年9月発売）	−	6	6	−	18	−	46	399.6%
ファンガード	31	32	1	5.6%	62	1.1%	119	−5.0%
プロトピック	8	10	1	21.1%	16	6.1%	32	2.7%
＜国内製品＞								
リピトール [ファミリー]	247	189	−58	−23.5%	446	−5.9%	898	−6.8%
内、カデュエット	−	23	23	−				
ミカルディス [ファミリー]	215	226	11	5.3%	432	5.8%	889	4.2%
内、ミコンビ	25	29	4	15.4%				
内、ミカムロ	21	37	15	73.2%				
ガスター	99	80	−18	−18.5%	164	−13.0%	321	−14.6%
マイスリー	85	91	5	7.0%	170	0.7%	335	−4.9%
セロクエル	71	77	6	8.6%	155	13.6%	295	6.2%
ワクチン	17	26	8	48.2%	68	−21.7%	227	−14.3%
セフゾン	21	17	−3	−14.9%	35	−13.8%	69	−15.9%
フランドル	24	23	−1	−7.5%	42	−9.8%	83	−11.3%
セレコックス	79	92	13	17.4%	173	10.2%	366	11.0%
ジェニナック	29	29	0	2.3%	48	7.8%	121	1.5%
ボノテオ	7	22	15	208.2%	43	97.2%	110	117.2%
シムビコート	45	60	14	31.6%	129	47.6%	296	47.8%
アーガメイト（*1）	−	15	15	−	30	−	73	−
国内医薬品　計	1,345	1,340	−4	−0.4%	2,696	3.0%	5,561	3.0%

注：売上高の開示は仕切価ベースです。

（*1）アーガメイトは2012年4月から販売

（億円）

3)海外の主要製品		12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
スキャン※	米州	123	131	7	6.3%	248	-1.2%	413	-15.8%
内、レキスキャン		107	116	9	9.0%				
アンビソーム	米州	12	13	0	7.0%	28	6.4%	56	2.6%
タルセバ		80	91	10	13.6%				
	米国	45	57	11	24.7%				
	米国以外	35	34	-0	-1.1%				
エリガード	欧州	37	36	-0	-1.6%	66	-8.9%	136	-1.7%
キューテンザ	欧州	1	2	0	39.2%				

※アデノスキャンとレキスキャンの合算

（億円）

4)輸出外部売上	12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
セフスパン	20	9	-11	-54.0%	15	-52.9%	31	-38.8%

5)欧米地域の売上高の状況（現地通貨）

単位：M＄

米州	12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
売上高	590	579	−10	−1.8%	1,098	−6.8%	2,165	−6.7%
プログラフ	97	94	−3	−3.2%	140	−27.7%	272	−26.5%
スキャン※	150	163	12	8.4%	310	−1.4%	516	−16.7%
内、レキスキャン	131	145	14	11.0%				
アンビソーム	15	16	1	9.1%	35	6.2%	70	1.4%
プロトピック	21	21	−0	−2.0%	43	−2.4%	90	−3.9%
ベシケア	122	132	10	8.4%	263	9.4%	537	9.2%
マイカミン	24	28	3	15.1%	53	4.1%	108	4.2%
タルセバ	98	114	15	15.7%				
米国	56	71	15	27.1%				
米国以外	42	43	0	0.8%				

※アデノスキャンとレキスキャンの合算

単位：M€

欧州	12/3期 1Q	13/3期 1Q	増減	増減率	13/3期 2Q予想	増減率	13/3期 通期予想	増減率
売上高	467	477	9	2.0%	872	−1.4%	1,779	1.1%
ハルナール	61	47	−14	−22.8%	88	−21.7%	175	−16.3%
自販　計	50	39	−10	−21.8%	70	−22.3%	140	−15.5%
内、カプセル	18	17	−1	−8.2%	31	−7.3%	63	−4.0%
内、OCAS	31	22	−9	−29.9%	38	−31.4%	76	−23.2%
バルクロイヤリティ	11	8	−3	−26.9%	18	−19.2%	35	−19.4%
プログラフ	160	147	−12	−8.1%	268	−12.4%	540	−10.9%
自販　計	146	137	−9	−6.4%	252	−9.3%	510	−7.7%
内、アドバグラフ	35	41	5	16.3%				
輸出外部売上	14	10	−3	−24.8%	15	−43.5%	30	−43.9%
ベシケア	62	74	11	19.3%	139	14.0%	281	11.3%
プロトピック	12	11	−0	−4.5%	25	11.5%	52	11.2%
マイカミン	7	12	5	72.3%	20	34.6%	44	29.0%
エリガード	31	35	3	12.3%	63	−1.2%	130	2.0%
キューテンザ	1	1	0	58.8%				

7. 連結貸借対照表

（億円：億円未満切捨て表示）

科目	2012年3月末 金額	2012年6月末 金額	増減	コメント
資産合計	**14,006**	**13,361**	**−645**	
流動資産	**7,810**	**7,414**	**−396**	
現金及び預金	2,109	1,896	−213	
受取手形及び売掛金	2,646	2,675	28	
有価証券	881	708	−172	
たな卸資産	1,118	1,141	22	
その他	1,083	1,016	−66	
貸倒引当金	−28	−23	5	
固定資産	**6,195**	**5,946**	**−248**	
有形固定資産	**1,991**	**1,952**	**−39**	
無形固定資産	**3,142**	**2,943**	**−198**	
のれん	941	880	−61	
特許権	1,614	1,482	−132	・特許権
その他	585	580	−5	OSI社償却（−31）
投資その他の資産	**1,061**	**1,050**	**−10**	仕掛研究開発費の減損
投資有価証券	605	603	−1	為替の影響
その他	456	447	−8	
貸倒引当金	−0	−0	0	

（億円：億円未満切捨て表示）

科目	2012年3月末 金額	2012年6月末 金額	増減	コメント
負債・純資産合計	**14,006**	**13,361**	**−645**	
負債合計	**3,825**	**3,520**	**−304**	
流動負債	**3,141**	**2,881**	**−259**	
支払手形及び買掛金	1,084	1,037	−46	
未払法人税等	247	110	−137	
引当金	40	31	−8	
その他	1,769	1,702	−67	
固定負債	**683**	**638**	**−44**	
退職給付引当金	169	162	−7	
その他	513	476	−37	
純資産合計	**10,181**	**9,840**	**−340**	
資本金	1,030	1,030	−	
資本剰余金	1,768	1,768	0	
利益剰余金	8,947	9,002	54	
自己株式	−231	−231	0	
その他有価証券評価差額金	122	122	−0	
為替換算調整勘定	−1,471	−1,867	−395	
新株予約権	16	16	0	

新薬開発状況　(2012年8月現在）

1. グローバル開発品

(1) 承認

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	製品名 （承認時期）	薬効/作用機序	対象疾患	地域	剤形	自社 /導入	備考
YM178 ﾐﾗﾍﾞｸﾞﾛﾝ	ﾐﾗﾍﾞﾄﾘｯｸ （2012年6月）	β_3受容体 作動薬	過活動膀胱における 尿意切迫感、 頻尿及び 切迫性尿失禁	米国	経口	自社	

(2) 申請中（最も開発の進んでいる地域のフェーズ）

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社 /導入	備考
YM178 ﾐﾗﾍﾞｸﾞﾛﾝ	β_3受容体 作動薬	過活動膀胱における 尿意切迫感、 頻尿及び切迫性尿失禁	欧州 申請 （2011年8月）	経口	自社	
MDV3100 ｴﾝｻﾞﾙﾀﾐﾄﾞ*	ｱﾝﾄﾞﾛｹﾞﾝ受容体 ｼｸﾞﾅﾙ伝達阻害剤	ﾄﾞｾﾀｷｾﾙによる 化学療法施行歴を有する 転移性去勢抵抗性 前立腺がん	米国 申請 （2012年5月） 欧州 申請 （2012年6月） 日本 P-Ⅱ	経口	Medivation	
		前立腺がん （化学療法未治療ほか）	米国 P-Ⅲ 欧州 P-Ⅲ 日本 P-Ⅲ ｱｼﾞｱ P-Ⅲ			効能追加
		乳がん	米国 P-Ⅰ			効能追加

*p-INN (proposed international nonproprietary name, INN: 国際一般名）

(3) P-Ⅲ～P-Ⅱ（最も開発の進んでいる地域のフェーズ）

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
ASP1941 ｲﾌﾟﾗｸﾞﾘﾌﾛｼﾞﾝ	SGLT2阻害剤	2型糖尿病	日本 P-Ⅲ 米国 P-Ⅱ 欧州 P-Ⅱ	経口	自社 (寿製薬と 共同開発)	
ｲｻﾌﾞｺﾅｿﾞｰﾙ	ｱｿﾞｰﾙ系 抗真菌剤	侵襲性ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ	米国/欧州 P-Ⅲ	注射 経口	Basilea	
		ｶﾝｼﾞﾀﾞ血症/侵襲性ｶﾝｼﾞﾀﾞ症	米国/欧州 P-Ⅲ			
ｴﾙﾛﾁﾆﾌﾞ (ﾀﾙｾﾊﾞ)	HER1/EGFR ﾁﾛｼﾝｷﾅｰｾﾞ 阻害剤	非小細胞肺がん （EGFR変異患者における 標準治療、ｱｼﾞｭﾊﾞﾝﾄ療法、 MetMabとの併用療法）、 大腸がん、小児上衣腫	米国 P-Ⅲ	経口	自社 （OSI）	効能追加
ASP4130 ﾁﾎﾞｻﾞﾆﾌﾞ	血管内皮 細胞増殖因子 (VEGF) 受容体1,2,3 阻害剤	腎細胞がん	米国/欧州 P-Ⅲ	経口	AVEO	
		大腸がん、乳がん	米国/欧州 P-Ⅱ			
ASP0113 (VCL-CB01)	ｻｲﾄﾒｶﾞﾛｳｲﾙｽ DNAﾜｸﾁﾝ	造血幹細胞移植時の ｻｲﾄﾒｶﾞﾛｳｲﾙｽ血症予防	米国/欧州 P-Ⅲ	注射	Vical	
		臓器移植時の ｻｲﾄﾒｶﾞﾛｳｲﾙｽ血症予防	米国/欧州 P-Ⅱ			
YM905 ｿﾘﾌｪﾅｼﾝ	ﾑｽｶﾘﾝM_3 受容体拮抗剤	小児の 神経因性膀胱と過活動膀胱	米国/欧州 P-Ⅲ	経口	自社	効能追加
ASP7487 (OSI-906) ﾘﾝｼﾁﾆﾌﾞ	IGF-1R/IR ﾁﾛｼﾝｷﾅｰｾﾞ 阻害剤	卵巣がん、非小細胞肺がん	米国 P-Ⅱ	経口	自社 （OSI）	
YM155 ｾﾊﾟﾝﾄﾛﾆｳﾑ 臭化物	ｻﾊﾞｲﾋﾞﾝ 発現抑制剤	乳がん、非ﾎｼﾞｷﾝﾘﾝﾊﾟ腫	米国 P-Ⅱ 欧州 P-Ⅱ 日本 P-Ⅰ	注射	自社	
AC220 ｷｻﾞﾙﾁﾆﾌﾞ	FLT3ﾁﾛｼﾝ ｷﾅｰｾﾞ阻害剤	急性骨髄性白血病	米国 P-Ⅱ 欧州 P-Ⅱ	経口	Ambit	
ASP1517 (FG-4592)	HIF安定化剤	腎性貧血	欧州 P-Ⅱ 日本 P-Ⅰ	経口	FibroGen	
YM311 (FG-2216)	HIF安定化剤	腎性貧血	欧州 P-Ⅱ 日本 P-Ⅰ	経口	FibroGen	
AGS-1C4D4	抗体 （前立腺幹細胞 抗原認識）	膵臓がん	米国/欧州 P-Ⅱ	注射	自社 (Agensys)	

(3) P-Ⅲ～P-Ⅱ（最も開発の進んでいる地域のフェーズ）（つづき）

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
ASP015K	JAK阻害剤	関節ﾘｳﾏﾁ	米国/欧州 P-Ⅱ 日本 P-Ⅱ	経口	自社	
		臓器移植における 拒絶反応の抑制	米国 P-Ⅱ			
ASKP1240	抗CD40抗体	臓器移植における 拒絶反応の抑制	米国 P-Ⅱ 日本 P-Ⅰ	注射	協和発酵 ｷﾘﾝ	
OSI-027	mTORｷﾅｰｾﾞ 阻害剤	腎細胞がん	米国 P-Ⅱ	経口	自社 (OSI)	
PSN821	GPR119作動薬	2型糖尿病、肥満	欧州 P-Ⅱ	経口	自社 （OSI）	
ASP8597 ﾀﾞｲｱﾈｷｼﾝ	ﾎｽﾌｧﾁｼﾞﾙｾﾘﾝ 結合阻害	腎移植後の 臓器機能障害予防	米国 P-Ⅱ	注射	Alavita	
EB178 ｿﾘﾌｪﾅｼﾝ/ ﾐﾗﾍﾞｸﾞﾛﾝ	ｿﾘﾌｪﾅｼﾝと ﾐﾗﾍﾞｸﾞﾛﾝの 併用療法	過活動膀胱における 尿意切迫感、頻尿 及び切迫性尿失禁	欧州 P-Ⅱ	経口	自社	
ASP3652	求心性神経活動 抑制	慢性前立腺炎/ 慢性骨盤痛症候群	欧州 P-Ⅱ 日本 P-Ⅰ	経口	自社	
		膀胱痛症候群/ 間質性膀胱炎	欧州 P-Ⅱ			
ASP1707	GnRH受容体 ｱﾝﾀｺﾞﾆｽﾄ	子宮内膜症	欧州/日本 P-Ⅱ	経口	自社	
		前立腺がん	欧州 P-Ⅰ			

2. ローカル開発品：日本

(1) 承認

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	製品名 （承認時期）	薬効/作用機序	対象疾患	地域	剤形	自社/ 導入	備考
ASP3550 ﾃﾞｶﾞﾚﾘｸｽ	ｺﾞﾅｯｸｽ （2012年6月）	GnRH受容体 ｱﾝﾀｺﾞﾆｽﾄ	前立腺がん （1ヶ月製剤）	日本	注射	Ferring	

(2) 申請中（最も開発の進んでいる地域のフェーズ）

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
YM443 ｱｺﾁｱﾐﾄﾞ	ｱｾﾁﾙｺﾘﾝ 分解酵素阻害剤	機能性ﾃﾞｨｽﾍﾟﾌﾟｼｱ	日本 申請 (2010年9月)	経口	ｾﾞﾘｱ新薬	
ｾﾙﾄﾘｽﾞﾏﾌﾞ ﾍﾟｺﾞﾙ	PEG化抗TNF-α 抗体	既存治療で効果不十分な 関節ﾘｳﾏﾁ	日本 申請 (2012年1月)	注射	UCB	
		ﾒﾄﾄﾚｷｻｰﾄ未治療の 関節ﾘｳﾏﾁ	日本 P-Ⅲ			効能追加

(3) P-Ⅲ～P-Ⅱ

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
YM533 ﾍﾞﾗﾌﾟﾛｽﾄ ﾅﾄﾘｳﾑ	ﾌﾟﾛｽﾀｻｲｸﾘﾝ 受容体刺激剤	慢性腎不全 (原発性・腎硬化)	日本/ｱｼﾞｱ P-Ⅲ	経口	東レ	効能追加 剤形追加
FK949E ｸｴﾁｱﾋﾟﾝ	ｾﾛﾄﾆﾝ・ﾄﾞﾊﾟﾐﾝ 拮抗剤	双極性障害における うつ状態	日本 P-Ⅲ	経口	AstraZeneca	効能追加 剤形追加
		大うつ病性障害	日本 P-Ⅱ			
YM060 ﾗﾓｾﾄﾛﾝ	5-HT3受容体 拮抗剤	過敏性腸症候群 女性患者	日本 P-Ⅲ	経口	自社	効能追加
		過敏性腸症候群 （口腔内崩壊錠）	日本 生物学的 同等性試験			剤形追加
ASP1585 (AMG223) ﾋﾞｷｻﾛﾏｰ	ｱﾐﾝ機能性 ﾎﾟﾘﾏｰ	保存期慢性腎不全患者に おける高ﾘﾝ血症	日本 P-Ⅲ	経口	Ilypsa/ Amgen	効能追加
ASP3550 ﾃﾞｶﾞﾚﾘｸｽ	GnRH受容体 ｱﾝﾀｺﾞﾆｽﾄ	前立腺がん （3ヶ月製剤）	日本 P-Ⅱ	注射	Ferring	剤形追加
ASP7373	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞﾜｸﾁﾝ	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ(H5N1)の予防	日本 P-Ⅱ	注射	UMNﾌｧｰﾏ	
ASP7374	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞﾜｸﾁﾝ	季節性ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞの予防	日本 P-Ⅱ	注射	UMNﾌｧｰﾏ	
ASP0456 ﾘﾅｸﾛﾁﾄﾞ	C型ｸﾞｱﾆﾙ酸ｼｸﾗｰｾﾞ 受容体作動薬	過敏性腸症候群	日本 P-Ⅱ	経口	Ironwood	

3. ローカル開発品：欧州

(1) 申請中

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
EC905 ｿﾘﾌｪﾅｼﾝ/ ﾀﾑｽﾛｼﾝ	ｿﾘﾌｪﾅｼﾝと ﾀﾑｽﾛｼﾝの 合剤	蓄尿症状を有する 前立腺肥大症に伴う 下部尿路症状	欧州 申請 （2012年3月）	経口	自社	

(2) P-Ⅲ～P-Ⅱ

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
NGX-4010 ｶﾌﾟｻｲｼﾝ	TRPV1作動薬	糖尿病性神経因性疼痛	欧州 P-Ⅲ	貼付	NeurogesX	効能追加

4. P-Ⅰ

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	対象疾患	剤形	自社/導入
AGS-16M8F・ AGS-16C3F	がん （ADC技術活用）	注射	自社 (Agensys)
ASG-5ME	がん （ADC技術活用）	注射	自社 (Agensys) [Seattle Geneticsと 共同開発]
ASP7035	夜間頻尿	経口	自社
ASP0777	ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病［認知症］	経口	自社
ASP0306	前立腺肥大症に伴う排尿障害	経口	自社
ASP4058	多発性硬化症	経口	自社
ASP4901 (AKP-002)	前立腺肥大症に伴う排尿障害	経口	あすか製薬
ASP8477	神経因性疼痛	経口	自社
ASP2408	関節ﾘｳﾏﾁ	注射	自社 (Perseid)
ASP3026	がん	経口	自社
ASP9521	前立腺がん	経口	自社
ASG-22ME	がん （ADC技術活用）	注射	自社 (Agensys) [Seattle Geneticsと 共同開発]
ASP9226	神経因性疼痛	経口	自社
ASP9603	前立腺がん	経口	自社
ASP7991	二次性副甲状腺機能亢進症	経口	自社
ASP2409	臓器移植における拒絶反応の 抑制	注射	自社 (Perseid)
ASP6973	変形性関節症、慢性腰痛	経口	自社
ASP6432	前立腺肥大症に伴う排尿障害	経口	自社

5. 開発中止品目

開発ｺｰﾄﾞ	開発段階	対象疾患	理由
ASP5034	P-Ⅰ	2型糖尿病	ﾌｪｰｽﾞ1試験の結果及び他剤との競合状況等を総合的に勘案し、開発中止を決定した。

【2012年5月10日　決算発表時からの変更箇所】

発売

・2012年2月に承認を取得したアモキシシリンの小児感染症における最大投与量の変更について、
リストから以下の記載を削除した。

・ASP1585 [透析中の慢性腎不全患者における高リン血症]について、2012年6月に日本で発売となったため、
リストから以下の記載を削除した。

・ASP8825 [中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群]について、2012年7月に日本で発売となったため、
リストから以下の記載を削除した。

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	製品名 （承認時期）	薬効/作用機序	対象疾患	地域	剤形	自社/ 導入	備考
ｱﾓｷｼｼﾘﾝ	ｻﾜｼﾘﾝ （2012年2月）	ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系 抗生物質	小児感染症 （ﾍﾘｺﾊﾞｸﾀｰ・ﾋﾟﾛﾘ感染を除く感染症）に対する 1日最大投与量の変更	日本	経口	自社	用法・用量 追加
ASP1585 (AMG223) ﾋﾞｷｻﾛﾏｰ	ｷｯｸﾘﾝ （2012年3月）	ｱﾐﾝ機能性 ﾎﾟﾘﾏｰ	透析中の 慢性腎不全患者に おける高ﾘﾝ血症	日本	経口	Ilypsa/ Amgen	
ASP8825 (XP13512) ｶﾞﾊﾞﾍﾟﾝﾁﾝ ｴﾅｶﾙﾋﾞﾙ	ﾚｸﾞﾅｲﾄ （2012年1月）	ｶﾞﾊﾞﾍﾟﾝﾁﾝの ﾌﾟﾛﾄﾞﾗｯｸﾞ	中等度から高度の特発性 ﾚｽﾄﾚｽﾚｯｸﾞｽ症候群 （下肢静止不能症候群）	日本	経口	XenoPort	

・フィダキソマイシン [クロストリジウム・ディフィシル感染症治療]について、2012年5月に欧州で発売と
なったため、リストから以下の記載を削除した。

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	製品名 （承認時期）	薬効/作用機序	対象疾患	地域	剤形	自社/ 導入	備考
ﾌｨﾀﾞｷｿﾏｲｼﾝ	ﾃﾞｨﾌｨｸﾘｱ （2011年12月）	大環状抗菌剤	ｸﾛｽﾄﾘｼﾞｳﾑ・ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ 感染症治療	欧州	経口	Optimer	

承認

・YM178 [過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁]について製造販売承認を2012年6月に米国で
取得したことから、承認の欄に移動した。

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	製品名 （承認時期）	薬効/作用機序	対象疾患	地域	剤形	自社/ 導入	備考
YM178 ﾐﾗﾍﾞｸﾞﾛﾝ	ﾐﾗﾍﾞﾄﾘｯｸ （2012年6月）	β_3受容体 作動薬	過活動膀胱における 尿意切迫感、 頻尿及び切迫性尿失禁	米国	経口	自社	

・ASP3550 [前立腺がん（１ケ月製剤）]について製造販売承認を2012年6月に日本で取得したことから、
承認の欄に移動した。

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	製品名 （承認時期）	薬効/作用機序	対象疾患	地域	剤形	自社/ 導入	備考
ASP3550 ﾃﾞｶﾞﾚﾘｸｽ	ｺﾞﾅｯｸｽ （2012年6月）	GnRH受容体 ｱﾝﾀｺﾞﾆｽﾄ	前立腺がん （1ヶ月製剤）	日本	注射	Ferring	

申請中

・MDV3100 [ドセタキセルによる化学療法施行歴を有する転移性去勢抵抗性前立腺がん] を2012年5月に米国で、2012年6月に欧州で申請したことから、申請中の欄に移動した。（下線部変更）

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
MDV3100 ｴﾝｻﾞﾙﾀﾐﾄﾞ*	ｱﾝﾄﾞﾛｹﾞﾝ受容体 ｼｸﾞﾅﾙ伝達阻害剤	ﾄﾞｾﾀｷｾﾙによる 化学療法施行歴を有する 転移性去勢抵抗性 前立腺がん	米国 申請 （2012年5月） 欧州 申請 （2012年6月） 日本 P-Ⅱ	経口	Medivation	
		前立腺がん （化学療法未治療ほか）	米国 P-Ⅲ 欧州 P-Ⅲ 日本 P-Ⅲ ｱｼﾞｱ P-Ⅲ			効能追加
		乳がん	米国 P-Ⅰ			効能追加

*p-INN (proposed international nonproprietary name, INN: 国際一般名）

P-Ⅲ～P-Ⅱ

・エルロチニブについて、肝細胞がんの開発を中止したため、対象疾患から削除した。また、非小細胞肺がん（MetMabとの併用療法）、大腸がん、小児上衣腫でのフェーズ3試験を実施中のため、対象疾患に追記した。（下線部変更）

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
ｴﾙﾛﾁﾆﾌﾞ (ﾀﾙｾﾊﾞ)	HER1/EGFR ﾁﾛｼﾝｷﾅｰｾﾞ 阻害剤	非小細胞肺がん （EGFR変異患者における標準治療、 ｱｼﾞｭﾊﾞﾝﾄ療法、MetMabとの併用療法）、 ~~肝細胞がん、~~大腸がん、小児上衣腫	米国 P-Ⅲ	経口	自社 （OSI）	効能追加

・YM060 [過敏性腸症候群　女性患者] が日本でフェーズ3段階に入ったため、開発段階を変更した。（下線部変更）

・ASP1585 [保存期慢性腎不全患者における高リン血症]が新たにフェーズ3段階に入ったため、以下を追記した。

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
YM060 ﾗﾓｾﾄﾛﾝ	5-HT3受容体 拮抗剤	過敏性腸症候群 女性患者	日本 P-Ⅲ	経口	自社	効能追加
ASP1585 (AMG223) ﾋﾞｷｻﾛﾏｰ	ｱﾐﾝ機能性 ﾎﾟﾘﾏｰ	保存期慢性腎不全患者に おける高ﾘﾝ血症	日本 P-Ⅲ	経口	Ilypsa/ Amgen	効能追加

・ASP1707 [子宮内膜症] が欧州/日本でフェーズ2段階に入ったため、P-Ⅲ～P-Ⅱの欄に移動した。（下線部変更）

開発ｺｰﾄﾞ 一般名	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階 地域	剤形	自社/ 導入	備考
ASP1707	GnRH受容体 ｱﾝﾀｺﾞﾆｽﾄ	子宮内膜症	欧州/日本 P-Ⅱ	経口	自社	
		前立腺がん	欧州 P-Ⅰ			

P-Ⅰ

・ASP6432 [前立腺肥大症に伴う排尿障害]をP-Ⅰの欄に追加した。

開発中止

・フェーズ1段階にあったASP5034 [2型糖尿病] の開発を中止したため、リストから削除した。

パイプラインリストから削除

・フェーズ1段階にあったASP7147 [過敏性腸症候群] について、"マルチトラックR&D"の取り組みの一環により、資産を他社に移転しアステラスが主体で開発を行わないことになったため、リストから削除した。